

百万回有りがとう

フリにまたたかい空身がこの節巻に玉来た

十八度あり

朝七時で十八度は充分だ

気節はきまされた それに丹志出 糸局のこと

がある

いつもの春うしすが果るおいてよかうた

伊となくうれしい

うれしいニとは フグくものうしい

赤い包のふたが糸灰

息子の手づくりだ

デニワ張大ほしくて その辺びぢいノト

があらはよいと思つて いた

赤いノトは半透明でビヤル別に色がかう

すいそこも出る ような なつてい

空らんが所へかき出して 行くのには 糸ようけ

長敷字とかくのは どうしようと

とあどつてしあう

余まで息子と ありおとろ さいわいことだ

あゝ 本券は うれしいのね どりして

言え予かろたのか
造ら買つてきたり
何かをしてもらつた
こと何かおかざりない

自転^車で送つてもらひ
東で東京駅 まで

行つてくおにり
おやでなひ

店^の仕事を手つた
夕方の買物

にも行つてくおに

今年二階の廊の部屋は
具るい 不ふりすう

おん 荷物かよ
そのものた

全部 彼おりの
アレセムトた

長い物 彼の思い
たなれてしまつてい

あうためて
おが子でいこくたて
お当に

うれしい

前とまか
てあかたうは
今となく

はずかしい
こんな人お息子
たなへて

緯地

2022
2/26